女性が働きやすい職場をめざして

東北電化工業株式会社が「山形労働局長優良賞」を受賞

女性が能力を発揮できる職場づくりへの取り組みが評価され、東北電化工業株式会社（電気設備工事業）が、厚生労働省が行う平成23年度、均等・両立推進企業表彰の中で、均等推進企業部門の山形労働局長優良賞を受賞されました。

今年度の受賞は、県内では同社のみです。

本社へ訪問し、会社の取り組みについてお話をうかがいました。

會津社長

能力を発揮できる職場環境を

会社の取り組みについて、會津圭一郎社長からお話をうかがいました。

平成17年に年功序列型の人事制度を廃止して、「新人事制度」を導入しました。これにより、性別にかかわらず個人の仕事の難易度や責任の重さ等で公正に評価するシステムをつくり、女性も能力を発揮しやすい職場になりました。この度の受賞は、このことが評価されたものと考えています。

会社で費用負担し、資格取得を推進

建設業は女性社員の比率が低い業界で、当社でも全社員の約10％となっています。

しかし、女性の能力を最大限に活かす環境づくりが生産性の向上につながると捉え、積極的に女性の職域を技術職や営業職に拡大するよう取り組んでいます。

現場の管理には専門の資格取得が必須です。そのための費用を、会社が全額負担して、勤務しながら資格の取得を推進しています。

文系の短大を卒業して事務職で入社し、その後勉強して「第一種電気工事士」を取得した女性社員もいます。現在は工務部で活躍中です。

積極的に女性技術者を採用

採用に際しては、男女不問、学部学科不問で行っています。

平成23年4月に新卒で女性技術者を一名採用しました。

また、技術・技能競技大会を開催し、県内の工業高校や短期大学の学生たちに興味をもつ機会をつくるため、参加してもらっています。女子学生も参加しております。そして、この大会をきっかけにして、入社を決めた社員もいます。

働きやすい職場づくりの実現

経験が浅い社員でも仕事の手順が明確に分かるよう、工程ごとに作成・提出すべき書類が一目で分かる「業務フロー表」を作成しています。

また、女性の技術職への配置にあたっては、複数人を配置し、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいます。

このような取り組みから、社員同士が円滑なコミュニケーションがとれるようになり、また、業務に対するきめ細かな対応やフォローが可能となり、生産性が向上してきました。

左から
會津社長、斎藤澄江さん（社内報担当）、半澤和仁人事課長

居心地のいい会社づくり

女性社員はほとんどが男性社員と同じように、定年まで勤めあげています。定年後もOB・OG会を開催し、毎年楽しみに参加してくれています。

昨年秋には、サックス奏者の須川展也さんを招き、会社で生演奏会を開き、社員や近所方々等多くの方に楽しんでもらいました。

また、社内の情報共有化を図るため、隔月に社内報を発行しています。女性ひとりで、県内外を走り回って取材・編集をこなしております。

女性社員三人に聞きました

○海鋒（かいほこ）有子（ゆうこ）さん
（入社34年・経理課長）

海鋒さん

子ども二人は成人し、現在は夫と二人暮らし。長男が小さい頃は、ベビーホームに預けて仕事を続けました。長女の時は、仕事を辞めていた義母にみてもらい会社に通勤しました。私にとっては、仕事を辞めることなど全く考えられずに今まで働き続けてきました。夫には「家より会社のほうが絶対好きだよね」と言われるほどです。

社内風土として、「女だから…」といった特別な扱いはありません。でも、男性社員は何かあるときは、支えてくれて、お互いにフォローして仕事をしています。

私は、経理専門にやってきました。これからもいろいろと勉強をして邁進したいと思っています。

○菖蒲（あやめ）珠美（たまみ）さん
（入社16年・工務部係長）

施工管理の仕事を担当しています。

昨年9月に女児を出産し、11月末には職場に戻りました。身体の回復が順調だったことや子どもを義母と実家の母がみてくれることなどから、何の不安もなく復帰できました。当社でも育児休暇は一年取れますが、早く仕事がしたいと思ったためです。

母親になった私に対して、男性社員はじめ、みんな思いやりがあり親切です。むしろ、私としては皆にあまり気を使わないで欲しいです。「早出も残業も皆と同じようにやり、仕事への達成感を共有したい。」と思っております。

菖蒲さん

これからも、三人の部下や若い人たちを育てていきたいと思います。また、海鋒課長をはじめ、上司のやり方を吸収していきたいです。

○増川（ますかわ）治己（ちこ）さん
（入社20年・工務部）

現場に出ている女性は、今のところ私たち二人だけです。一般住宅の仕事を中心に、昨年は年間２００件ほど担当しました。

以前は、私と菖蒲さんは現場にも出て行きましたが、休憩所やトイレの問題などもあり、現場で実際に作業をするということは少なくなっています。今は現場の管理や設計が主な仕事です。

初めての現場でのことですが、大型スーパーの屋上で、避雷針の工事をしていた時に見た眺めが、今でも忘れられません。絶景でした。

これからは、高齢者や女性のお宅を気軽に訪問し、お客様のニーズに応え、また、相談にも対応できるような「頼れる電気屋さん」になりたいと思っています。

増川さん

編集協力員　後藤　桂子